

# 【理科・中1・校庭や学校周辺の生物（生物を分類する）】①

## 育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、生物の観察と分類のしかたについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- (思・判・表) 身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現する。
- (学びに向かう力等) 生物の観察と分類のしかたに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。

## ICT活用のポイント

生物を写真に撮ることで、多くの生物を調査・記録することができる。  
家庭で生物カードを仕上げることで、発表の時間を授業内で十分に確保できる。

【ふれる・つかむ】  
自然事象に働きかけ、単元の  
課題をつかむ

【追究する】  
探究の過程に沿って観察を行い  
課題を解決する

【まとめる】  
学習をまとめ、自然や生活にあ  
てはめる

## 事例の概要

### 【事例におけるICT活用の場面①】

- ・生物カード作成のために写真撮影する。生物カードに「生物がいた場所」をメモする。  
(追究の過程における「観察」の場面)

### 【事例におけるICT活用の場面②】

- ・家庭で生物カードを作成する。インターネットで調べて特徴を付け加える。  
(追究の過程における「結果の処理」の場面)

### 【事例におけるICT活用の場面③】

- ・生物カードをお互いに発表し合い、新たな視点や違いに気付く。  
(追究の過程における「考察・結論」の場面)

# 【理科・中1・校庭や学校周辺の生物（生物を分類する）】②

## 【事例におけるICT活用の場面①】



端末で撮影することで、スケッチに時間を取られることなく、生物を探したり特徴をじっくり見たりすることができる

- 端末で撮影することで、多くの生物を調査することができる。（スケッチに時間を取られることなく、生物を探したり特徴をじっくり見たりすることができる）
- 家で生物カードを仕上げることで、発表の時間を授業内で十分確保できる。（授業で生物カードの作成にこだわりすぎて発表時間が無くなってしまうリスクを避けられる）
- 自分の気付き以外にも、インターネットで調べて特徴を付け加えることができる。
- 学習支援ソフトで発表資料を共有することにより、自分の見つけた生物の特徴と友達の見つけた生物の特徴との共通点や相違点を見付けやすくなる。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



## 【事例におけるICT活用の場面③】



発表資料を共有することにより、自分の気付きと友達の気付きの比較検討がしやすくなる

### 【活用したソフトや機能】

- 写真撮影
- プレゼンテーションソフト
- ウェブブラウザ
- 学習支援ソフト